

## 意 関高 SGH 情報 第44号 RGHプロジェクト委員会

今回は、AFS でイタリアに留学している関高生の中間報告です。

## ◇ イタリア留学体験

長良太慈

## はじまったイタリアでの生活

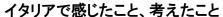
日本を離れてから、早くも三ヶ月が経とうとしていま す。着いた当時は暑ささえ感じていましたが、今では冬 の寒さに凍えています。思い返せば、これまでの一日一 日は濃厚で、それでもあっという間に過ぎ去ってしまっ たように思えます。

ここに来た最初の頃は、何もかもが新鮮で刺激的でし た。この留学をするまで、日本から出たことはなかった ので、ただまわりに外国人が大勢いるということ自体が、 とても新鮮なことでした。しかし、反対に不安や焦りも ありました。

たとえば、初日に他の日本人の留学生とこちらの空港 に着いた時、他国の留学生と一緒になる時がありました。 Helloくらいしか言えませんでした。

「あれだけ英語の授業を受けて来たのに何なんだこれ は」と焦りを感じたのを覚えています。いざとなったら 日本語を使えていた学校での授業との違いに気づいたの は、その時でした。

そんな最初の頃の戸惑いや新鮮さが段々と日常に変わ って来ています。そのことが嬉しい反面、寂しくもあり ます。



今も、毎日が刺激的なことに代わりはありません。たく さんの人と出会い、新しいものを見るたびに、たくさん の発見があります。

ベネチアには数回行きましたが、美しく、そして歴史 があり、学ぶことがたくさんありました。迷路のような 細い路地を進んだり、水路にかかる石橋からゴンドラを 見下ろしたり、いるだけでとても楽しい所でした。

発見は自分の外側だけでなく、自分の内側にもありま す。もちろん、こちらではうまくいかないことの方が多 いです。失敗もたくさんしています。その中で、自分の 良さと、弱さに気付かされます。

私にとって最も幸運なことは、大好きな音楽をこちら でも続けられているということです。ただの楽しみとし てだけではなく、これを通してたくさんの人と出会うこ とができているからです。

こちらでも吹奏楽団に入っています。とても上手とい う訳ではありませんし、素人も混ざっているような楽団 です。それでも、演奏することが楽しいし、他の、大人

の演奏者と話すこともとても楽しく感じます。音楽に国境はないというのも、あながち間違いで はないのかもしれません。

今の自分はまだ、日本に帰るには、とても未熟で弱いと感じます。身につけたい能力も知識も





まだまだです。これからの七ヶ月間を無駄に過ごすことがないように、頑張りたいと思います。 最後になってしまいましたが、この留学を認め、支えてくれた家族を始め、僕を送り出してく れた先生、先輩、後輩、そして同級生のみんなに改めて感謝を伝えたいです。ありがとう。





